

# 2019年度 北陸大学特別研究助成金【教育改革研究】成果報告書

北 陸 大 学  
学 長 殿

代表者	所属	経済経営学部	職位	助教	氏名	宇都 伸之
-----	----	--------	----	----	----	-------

研究課題名	初年次文章作成教育における自習教材の開発とその効果測定
-------	-----------------------------

交付額	723,000	円
-----	---------	---

## 研究成果の概要

文章作成力に関する科学的知見に基づいた自習教材を開発し、その自習教材の教育効果を検証することを目的として本研究課題を遂行した。本学を含めた国内大学における文章作成教育の現状に照らし合わせ、先行研究に基づき教材を開発した。経済経営学部の学生を研究協力者として教材の実験的運用を行った。実験的運用の前後に学生が作成した文章を第3者が評価し、評価結果の差分から学生の文章作成力の向上を測定した。その結果、学生の文章作成力が向上しているという結果を得た。本研究課題で作成した教材は自習教材であるが、2020年の新型コロナウイルス感染症拡大により遠隔授業を実施せざるを得ない状況となり、早くも本教材を正課の授業で活用している。

**研究目的** 研究開始時の背景・着想に至った経緯などを含めて目的を記入して下さい。

経済経営学部は未来創造論(2019年度からは日本語リテラシー)などの科目を設置し、初年次文章作成教育に精力的に取り組んでいる。また、AO入試合格者に対しては、入学前教育の一環として作文課題を課しており、入学前から文章作成力を向上させようとする方針がうかがえる。文章作成力は、在学中のレポート課題、卒業論文、就職活動のエントリーシートのみならず、卒業後の社会のあらゆる場面が必要とされる能力の一つである。したがって、入学前や初年次の段階から文章作成力を育むという経済経営学部の取り組みは「21世紀を生き抜くチカラ」を身につける北陸大学の教育方針に合致するもので、今後、より効果的に推進されるべき取り組みの一つといえる。

しかし、経済経営学部における初年次文章作成教育には解決すべき三つの問題が存在している。一つ目は経済経営学部における文章作成教育が科学的知見に基づいていないという問題である。教育内容の大半はそれぞれの教員のアイデアに基づいており、学部全体としての文章作成教育方針に統率が取れていない。二つ目は、経済経営学部における文章作成教育の効果が検証されていないという問題である。教育効果に関する情報は、将来の教育改善に極めて重要な情報である。また、地域や保護者の信頼により大学が成立していることを鑑みると、教育効果を検証しその結果を社会に発信する態度は極めて重要といえる。三つ目は、今後経済経営学部の学生数が大幅に増加するという問題である。文章作成教育は教員による手厚い指導が重要であるが、現状では学生数の増加に対応しきれない可能性があり、文章作成教育の質低下が懸念される。

以上の三つの問題を踏まえ、本研究計画は文章作成力に関する科学的知見に基づいた自習教材を開発し、その自習教材の教育効果を検証することを目的とする。研究代表者である宇都はこれまでの研究で文章作成力が5次元の構造を持っていることを明らかにしている(佐渡島, 坂本, 宇都ら2016)。この科学的知見に基づき経済経営学部における文章作成教育の教材開発を行う。また、経済経営学部の学生数が今後大幅に増加するため、これまでと同様の手厚い指導を保つことが困難になることが予想される。そのため学生による自主的な学習の質を高めることにより教育の質を保つ方法が考えられる。そこで本研究計画では自習教材を開発する。最後にこの自習教材の教育効果を、統制実験を行うことにより正確に検証しこの結果を発信する。

## 研究の方法

研究の実施計画は三つの段階に分けられる。

第一段階は教材開発(4月から9月まで)である。先行研究である佐渡島, 坂本, 宇都ら(2016)に基づいて、経済経営学部の現状と教育理念に基づいた自習教材を開発する。経済経営学部において初年次文章作成授業を担当している教員からも意見を集める。教育現場からの意見は経済経営学部の実情に即した教材を完成させるために非常に有用な情報となるからである。修正を繰り返すことで教材の完成を目指す。

第二段階は統制実験(10月から12月まで)である。経済経営学部の一年生を実験協力者として雇用し統制実験を行う。片方の群に開発した自習教材を使ってもらい、もう片方の群には経済経営学部で過去に使用していた自習教材を使ってもらう。10月から12月まで2週間に1編のペースで作文課題を課し、2群の文章作成力の変化を分析する。このことにより自習教材の効果を測定する。なお、学生を雇用する理由は、正確に自習教材の効果を測定するためである。通常、授業や教材は学生の意思によって選択する。しかし、授業や教材を選択するという行為の背後にある何らかの要素(やる気など)が、授業や教材のパフォーマンスに影響を与えている可能性を排除することができない。このため、授業や教材の教育効果を正確に測定することができない。このような問題を排除するために、学生に教材を選択させるのではなく、学生を雇用し、無作為にどちらかの群に振り分けることで、正確に自習教材の効果を測定するのである。

第三段階は文章力評価(1月から3月まで)である。第二段階で学生が作成した文章を、利害関係の無い第三者が評価する。この評価結果を分析することで、自習教材の効果を検証する。本研究計画では文章作成の指導・評価において実績のある早稲田大学ライティングセンターのスタッフに、その評価を依頼する予定である。

研究成果	引用文献は文末に〈引用文献〉として記入して下さい。
<p>本研究課題は、研究開始時に提出した研究計画所に従い、おおむね順調に遂行することができ一定の研究成果をあげることができたといえる。</p> <p><b>①第1段階</b></p> <p>4月から10月までを教材開発期間として定め教材開発を行った。事前準備として経済経営学部における初年次文章作成教育の現状分析を行った。加えて国内の大学における取組み例を収集・分析した。以上を踏まえ、先行研究である佐渡島、坂本、宇都ら(2016)に基づき教材の章立てを組み立て、各章の教材を分担して作成した。なお、佐渡島、坂本、宇都ら(2016)は、文章作成力の構造は「1. 文と語句、2. 内容、3. 段落、4. 全体構成、5. 参考文献」の5因子構造であるとしているが、本学における教育の現状に照らし合わせ「5. 参考文献」を除いた4因子に基づいた章立てとした。教材の構成は①例題、②例題の解説と文章作成の原理③練習問題という構成になっている。学生は事前に800字程度の文章し、教材を読み①～③を自身のペースで進める。その後、事前に作成した文章を教材内容に従って自身で修正する。以上が想定している教材の使用方法である。</p> <p><b>②第2段階</b></p> <p>10月から12月までは開発した教材の実験的運用を行った。アルバイト公募で募集した経済経営学部の学生に研究協力者として教材による学習を依頼した。学生は事前に600字～800字程度の文章を1編作成し、教材を使い文章作成の原理を学ぶ。その後、事前に作成した文章を学んだ文章作成の原理に基づいて修正する。以上のサイクルを合計8週間行った。加えて、以上の実験的運用の前後に学生には800字程度の文章作成(プレ・ポスト文章と呼ぶ)を依頼した。</p> <p><b>③第3段階</b></p> <p>翌年1月から3月までにおいて、第2段階で学生が作成した文章を利害関係の無い第三者が評価した。この評価結果を分析することで学生の文章作成力の変化を測定した。文章評価は教材の章立てに対応させた4次元のルーブリックによって行った。詳細な分析は現在実施しているところではあるが、それぞれの文章作成力は向上しているという良好な結果を得ている。</p> <p>以上のように、本研究課題はおおむね順調に遂行することができていたが、研究遂行上の問題にも直面した。</p> <p>当初は教材の効果測定として統制実験を計画していた。そのためには多数の研究協力者が必要であった。しかし、経済経営学部の全学生に対して研究協力を募ったが協力者の数が想定を大きく下回った。加えて、協力者の応募理由の大半が、アルバイト代ではなく文章作成力向上というものであった。</p> <p>本研究課題は当初は検証手法の妥当性を重視し統制実験を予定していた。しかし、本研究課題を助成する特別研究助成(教育改革)の本来の目的に照らし合わせた結果、厳密な統制実験という手法を取らずに、研究協力者として参加した学生全員に教材の使用を依頼するという教育的配慮を取り入れることになった。このため、文章作成力の向上は確認されているが、それが本研究課題で開発した教材の効果であるという結論には原理的に到達できないという問題が残されている。</p> <p>本学のように統制実験を行うことができない環境において、教材や教育的工夫の効果をどのように測定するかという手法上の問題については今後解決すべき問題として残されているといえる。</p> <p>2020年に入り新型コロナウイルス感染症が拡大し、2020年度の前期授業はインターネットを活用した遠隔授業によって開始せざるを得ない状況になった。本研究課題で開発した教材はあくまでも自習を想定したものであるが、経済経営学部における初年次文章作成教育の遠隔授業で活用されることとなった。予想より早く本研究課題に対する助成金が経済経営学部の教育に生かされる運びとなった。本教材の遠隔授業における効果については今後研究していきたい。</p>	
主な発表論文等	論文・学会・HP等の発表があれば、項目ごとに記入して下さい
<p>詳細な分析を終え次第、学会報告・査読付き学術誌に論文を投稿する予定である。</p>	